



●発行 2017.7.15 NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

## ■6/25「第3回 総会」報告

第3回通常総会を6月25日、大山街道ふるさと館にて開催し、約20名の参加で活発な議論がされました。以下、2017年度の活動方針の概要をご報告します。

**事業面**では、横浜勤労者福祉協会の協力を得て「うしおだ診療所」屋上に3号機の設置が決まり、神奈川県「地域主導再生可能エネルギー事業」補助金制度からの無利子借り入れを利用する方向となったこと、2号機の発電電力が株式会社生活クラブエナジーに売電契約が決まったことなどから、これまでの市民個人のつながりの域を超えた組織・行政と協同することとなり、当法人としても、継続的事業体として確かな信用を得るべく、事務局体制の強化が課題とされました。

**イベント面**では、2017年度3号機の設立が最大の出来事となるものであり、新たな発電所設立の運動的な効果を最大限に発揮すべく、横浜勤労者福祉協会と連携をしながら、イベントを企画・実施していくことが重要とされました。また、1・2号機についても、売電をきっかけに生産者となり、生活クラブ生協との関係が深まることから、共催イベントなどを企画する方向で動きたいと考えています。さらに、第3回「おひさまフェス×星空上映会 in2017」についても楽しみながら工夫を凝らしたイベント企画をしていきたいと考えています。



**政策検討面**では、「川崎市再生可能エネルギー市民条例案」の実現に向けて、川崎市議会各会派への働きかけを進めるなど、運動展開に力点をおいた活動に移ります。また、浜岡原発の神奈川県への危険性については、リーフレットを作成し市民発信を進め、神奈川において衰退傾向にある脱原発運動の起爆剤となる展望を持って進めていきます。

NPO法人設立当初からの気風とも言える、新しい活動を生み出す創造性と、これまで蓄積した経験を武器に、ぜひ多くの会員のみなさまのご協力、ご支援を得て共に前進する2017年度にしたいと考えています。引き続きよろしくごお願い申し上げます。

理事長 川岸 卓哉



## ■6/25「総会記念企画」報告

### ～浜岡原発でシビアアクシデントが起こったら!?

### 神奈川への影響を学習し、体験型ワークショップを実施～



総会終了後、当会政策検討チーム+イベントチームのコラボ企画として、講演「浜岡原発のリスクと事故時の神奈川への影響」を行いました。

講演は、約1年をかけて浜岡原発現地の廃炉を求める運動と連携し、各地の原発運転差し止め訴訟について研究を深めてきた当会副理事長・田中哲男と理事・岩坂康佑が担当しました。

講演では、工学を学んだ経験がある田中副理事長から、中部電力が再稼働申請審査を通過するために講じている数々の大地震・津波対策を紹介し、新規制基準をクリアしたとして

てもまだ残る安全上の懸念について、細かな計算をも交えて講義しました。岩坂理事からは、大都市・川崎の地理的特性をふまえ、浜岡でシビアアクシデントが発生した際の避難の困難さについてプレゼンテーションしました。

後半は、浜岡原発での事故が起きた際、川崎市民にはどのような判断が迫られるかを体感し、その危険性の大きさを実感することを主旨として、ワークショップを行いました。この企画はまだ構想段階であり、試験的な試みにお付き合い頂くことを参加者の皆様にはご了承頂いたうえで本企画を実施しました。

司会者・鳥海から、「ある日の気象条件と浜岡原発で起きたシビアアクシデントに由来する被ばく線量予測」をお伝えし、参加者それぞれの生活状況や家族の状況、どのような考えが頭をよぎり、避難に際して考えなければならない様々な要素を思い浮かべ、書き出して頂きました。それを隣席した数人と共有し、話し合っ頂くとこで今回のワークショップは終了といたしました。

参加者からは、シミュレーション・シナリオやファシリテーションに対するアドバイス、また、自分の身に置き換えて浜岡原発の再稼働について考えることができたという感想などを頂きました。

今回の感想・ご指摘を今後に活かし、浜岡原発再稼働が首都圏の住民に与える影響をさらに訴えていけると、思いを新たにしました。



政策検討チーム 鳥海 幸恵



## 発電所 訪問記

### 【全国初！ 14年間の市民参加を生かし、廃食用油利用のバイオマス発電】



2016年4月、群馬県藤岡市で廃食用油を利用したバイオマス発電所が運転を開始した。毎日約2000ℓの油でほぼ100%稼働している。「誰もやっていないから、申し込みのひな形もなかったが、経産省がFIT販売で認めてくれた」と取締役事業本部長須藤弘之さんは話す。

事業展開をしているのは株式会社アープ。小さな地元の会社であるが、環境運動としての広がりや、14年間、市民参加の食用油を利用してきた実績がある。11市町村で公的機関や民間団体の協力を得て、1ヶ月平均4,850kgの食用油を集めている。市民団体にはkg2円を支払っている。それをバイオディーゼル（BDF）燃料化して、軽油に5%混ぜて販売してきた。

しかし、伸びない。そこで発電事業に着手。廃食用油1ℓが3.48kWhの発電量になる。出力145kwのヤマハ製発電機1台で、1日の発電量は3480kWh。年間1,252,800kWhを発電する計画だ。

その仕組みはざっと次のとおり。網でカスを取って、タンクに半日静置。遠心分離機を利用して次のタンクに移し、2日置き水分を取り除く。5ミクロンのフィルターを通してから3本目のタンクで静置。黒かった油がきれいになる。この工程では発電所の廃熱も利用している。

今、その廃熱を利用して、エビの養殖も計画中だ。

「市民の力の結集」「その思いを多くの人たちとわかちあい、共に行動したい」。これが会社の理念だ。

（2016.10.22撮影、当NPOではこのバイオマス発電所を含む視察旅行を企画中）



理事 高橋 喜宣

#### 【編集後記】

7月11日に「日本と再生」の上映会を開催しました。詳細は8月号で報告させていただきますが、たくさんの方のご協力に感謝申し上げます。午後と夜の2回上映し、200人を越える参加がありました。河合弘之監督の講演は皆さんの心に響いたようで、アンケート回収率が異常に高く、ピッシリ裏まで書いてくださった方も。主催者側も元気をいただきました。ありがとうございました。（加藤伸子）

#### ■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は毎月15日に発行しています。

☆今月は3ページでお送りいたします。

